

ナナカマドキアシハバチ（仮称）

7～8月にナナカマドの葉を集団で食べるイモムシ（幼虫）。体長最大13mm。体は黄色、多数の黒い斑点がある。小さな幼虫は頭が黒い。腹脚（イボ状のあし）は7対。

市街地のナナカマド並木で大発生した例がある。



1. 被害, 1993/7/22. 遠軽町, 庭木のナナカマド.



2. 終齢幼虫, 体長13mm. 1993/7/25. 1の集団の一部.



3. 雌成虫, 体長7mm. 1の集団を飼育.



4. 葉内に産み込まれた卵, 1993/8/16.

1の集団から羽化した雌成虫が産卵.

【学名】 *Pristiphora* sp.

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera), ハバチ亜目 (Symphyta), ハバチ科 (Tenthredinidae)

【分布】 北海道.

【特徴】

幼虫は黄色。頭部は若～中齢では黒色、終齢では黄褐色。体には黒点があり、終齢では目立って大きい。アカスジチュウレンジの幼虫に似るが、ナナカマドを食べるので識別は簡単。

成虫は黒色、脚が大部分黄色、体長6～7mm.

【生態】

宿主：ナナカマド.

北海道の低地では幼虫が7月下旬～8月中旬に発生する。7月下旬に採集した終齢幼虫を室内飼育したところ、すぐに繭になり8月上旬に成虫が羽化した。この成虫に産卵させ、次世代を飼育したところ9月中旬に成虫になった。従って、1年に数回発生するようと思われるが、野外では夏以外に幼虫を観察していない。

雌成虫はナナカマドの葉縁に卵を次々と産み込む。幼虫は数十頭の集団を形成する。

【被害】

1994年に苫小牧市と白老町のナナカマド街路樹で多発した記録が1齢ある。苫小牧では2000本が加害された。この多発生は1年で終わっている。木の枯れは報告されていない。

【文献】

1995. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 1994年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業, 47: 166-169. (多発記録, ヒゲナガハバチの1種として記録されている.)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ナナカマドキアシハバチ habachi/nanakia/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1998/4/2-2001/3/11.

1yochu2.JPG, 1yochu.JPG, 1seichu.JPG, 1tamago.JPG

「写真1～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993.